

歴防定例 20170422

発表者：青柳憲昌

C部会 歴史文化都市の防災デザイン研究部会

C-01 歴史文化都市の伝統に学ぶジオデザインによる都市防災計画

歴史都市の防災文化に関する研究

富田林寺内町の防災的特性（中間報告）



新時代に適応した防災的様式の提案



歴史都市の【歴史的価値】を維持しながら、
どのように【防災・保存】を行うか？

※一般に【歴史的価値】の維持と【防災】は相反する



京都 こうやくのずし
膏薬辻子（下京区）

細街路：
都市のスケール感



あじき路地（東山区） 袋路：
地域のコミュニティ

【歴史的価値】とは何か？

① 「文化的価値」 (習俗・祭礼・建築・都市…)

→ 現代の防災のために価値のありかを明確化

→それを損なわないように「防災・保存」を行う必要がある



町家を改修した料亭 (上京区)

町家の構造・間取り



祇園祭りの山鉾巡行 (前祭) 御池通

歴史都市の祝祭空間

② 「防災文化的価値」

→現代の防災・保存とも矛盾しない・・・防災計画に有効活用すべき

→建築史・都市史における人々の 防災的配慮・工夫を明らかにする

新領域の研究の必要性がある。

そもそも「建築」や「都市」は、自然災害や外敵から人間を保護するシェルター。
・・・したがって人間の建築的な営みは根源的に「防災」と密接な関係にあるはず。



登呂遺跡復元住居



中世のパリ

富田林寺内町の都市建設に見る防災的配慮



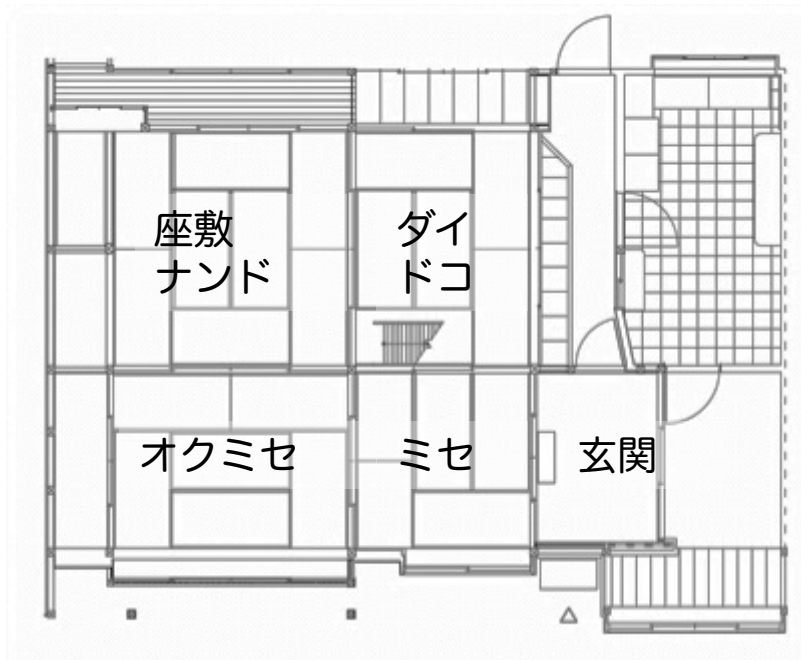
富田林寺内町の町並み（杉田家住宅・田守家住宅）

富田林寺内町（大阪府）の建築史および都市史調査・研究

研究担当：青柳憲昌・大場修

立命館大学建築史研究室・京都府立大学史的住環境学研究室

- ◆重要伝統的建造物群保存地区・富田林寺内町の実測調査および文献調査
- ◆歴史的町家6件（10棟）の平面図等の作成、各町家の建設年代や意匠的特徴を明確化



小田家住宅1階平面図（作図：臼井秀一郎）



京谷家住宅



松井家住宅
明治前期



小田家住宅
明治36年



植村家住宅
江戸末期



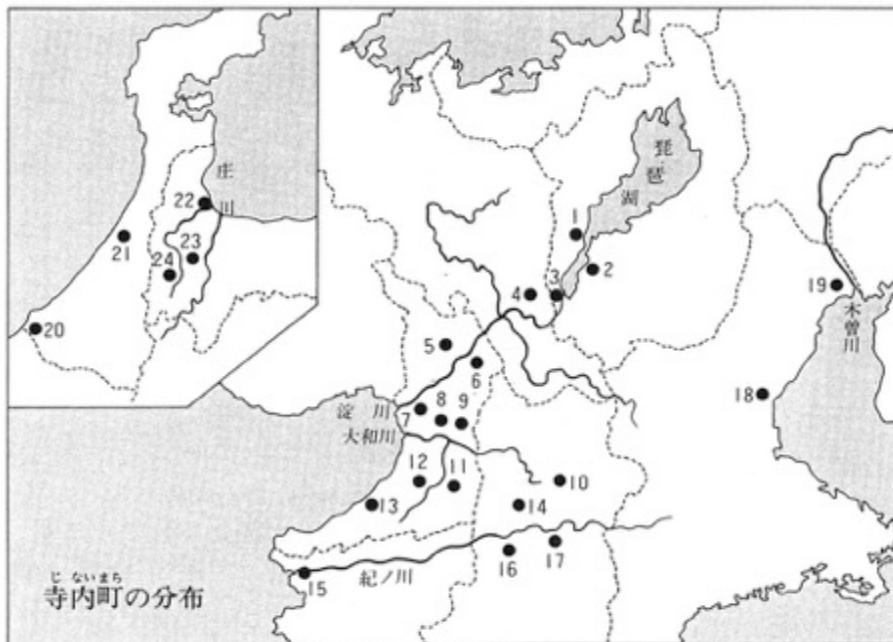
集合住宅
昭和初期



仲谷家住宅
昭和初期

寺内町とは、

- ・主として戦国時代に建設
- ・浄土真宗の寺院を中核とする自治的な宗教都市
- ・防衛体制を整える（一向一揆などを背景）・・・近世城下町への影響
- ・主な真宗の布教域である近畿・北陸に多い



- | | | |
|---------|---------|---------|
| ① 堅田 | ⑨ 八尾 | ⑰ 上市本善寺 |
| ② 近江山田 | ⑩ 今井 | ⑱ 一身田 |
| ③ 大津願証寺 | ⑪ 大ヶ塚 | ⑲ 長嶋願証寺 |
| ④ 山科本願寺 | ⑫ 富田林 | ⑳ 吉崎御坊 |
| ⑤ 摂津富田 | ⑬ 貝塚 | ㉑ 金沢御坊 |
| ⑥ 枚方 | ⑭ 御所 | ㉒ 越中古府 |
| ⑦ 石山本願寺 | ⑮ 鷺ノ森 | ㉓ 越中井波 |
| ⑧ 久宝寺 | ⑯ 下市願行寺 | ㉔ 城端 |

『復元日本大観6 民家と町並み』伊藤毅他、1989



今井町の町並み（奈良県）

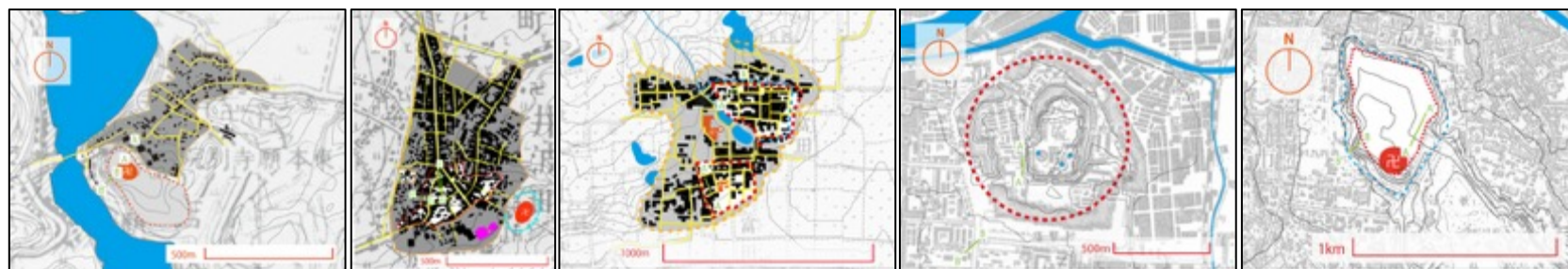


一身田の町並み（三重県）

「台地型寺内町」として知られる 11 都市に着目

- ・・・富田林と比較検討しつつ、
- ・・・ **寺内町に見られる防災的工夫** とは何か を探る。

(富田林の都市史的価値を明らかにする)



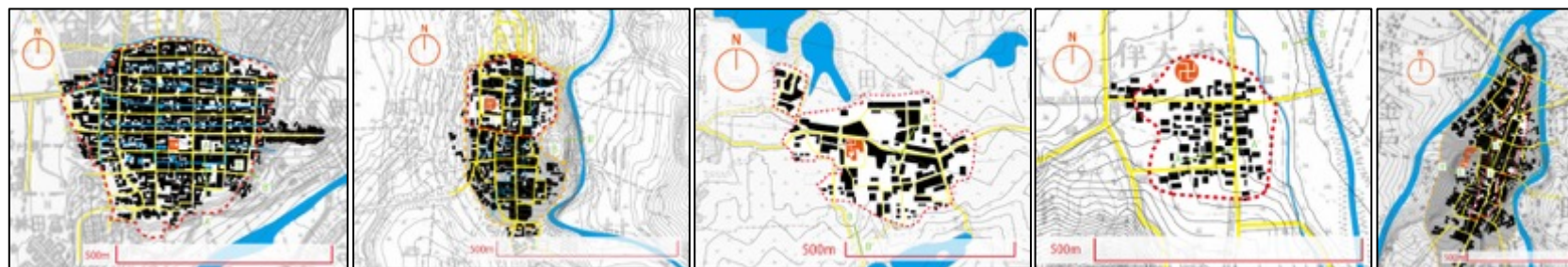
越前吉崎
(福井県あわら市)

越中井波
(富山県南砺市)

摂津富田 摂津富田東岡
(大阪府高槻市) (大阪府高槻市)

摂津大坂
(大阪府大阪市)

加賀金沢
(石川県金沢市)



河内富田林
(大阪府富田林市)


河内大ヶ塚
(大阪府南河内郡)

河内金田
(大阪府堺市)

河内大伴
(大阪府富田林市)


越中城端
(富山県南砺市)


 : 寺内町の町域

 : 近世に広がった町域

 : 中核の寺院

 : 街区

 : 街路

 : 水路・河川

 : 井戸

作図：坪田叡伴



奥谷家 (1818-29)

袖壁・卯建

南奥谷家

壁・軒裏の塗込め

旧杉山家

民家（町家）の防火対策・・・軒裏・壁面の塗込め、袖壁・卯建



旧杉山家住宅（17世紀）

民家（町家）の防火対策・・・城郭風の意匠へ

「八棟造り」＝豪壮さの表現

【防災】が【建築意匠】を導く



煙返し梁

カマヤ

旧杉山家住宅（17世紀）

カマヤ（炊事場）＝竈（かまど）の防火区画・・・「煙返し梁」

防災的観点からみた建築史研究・・・古民家の様式の成立要因
例：「大和棟」の民家形式（大和・河内の上層農家）



中家住宅（奈良県・安堵町）

カマドの上は瓦葺き（防火的）で、
屋根勾配が緩い（煙出し付き）



興正寺別院（中核寺院）

↓ 富田林寺内町



石川と富田林・・・河岸段丘上の台地に立地・・・防衛上有利



台地側の防衛：台地側は防衛上の弱点・・・「堀」の建設



撮影：白井秀一郎

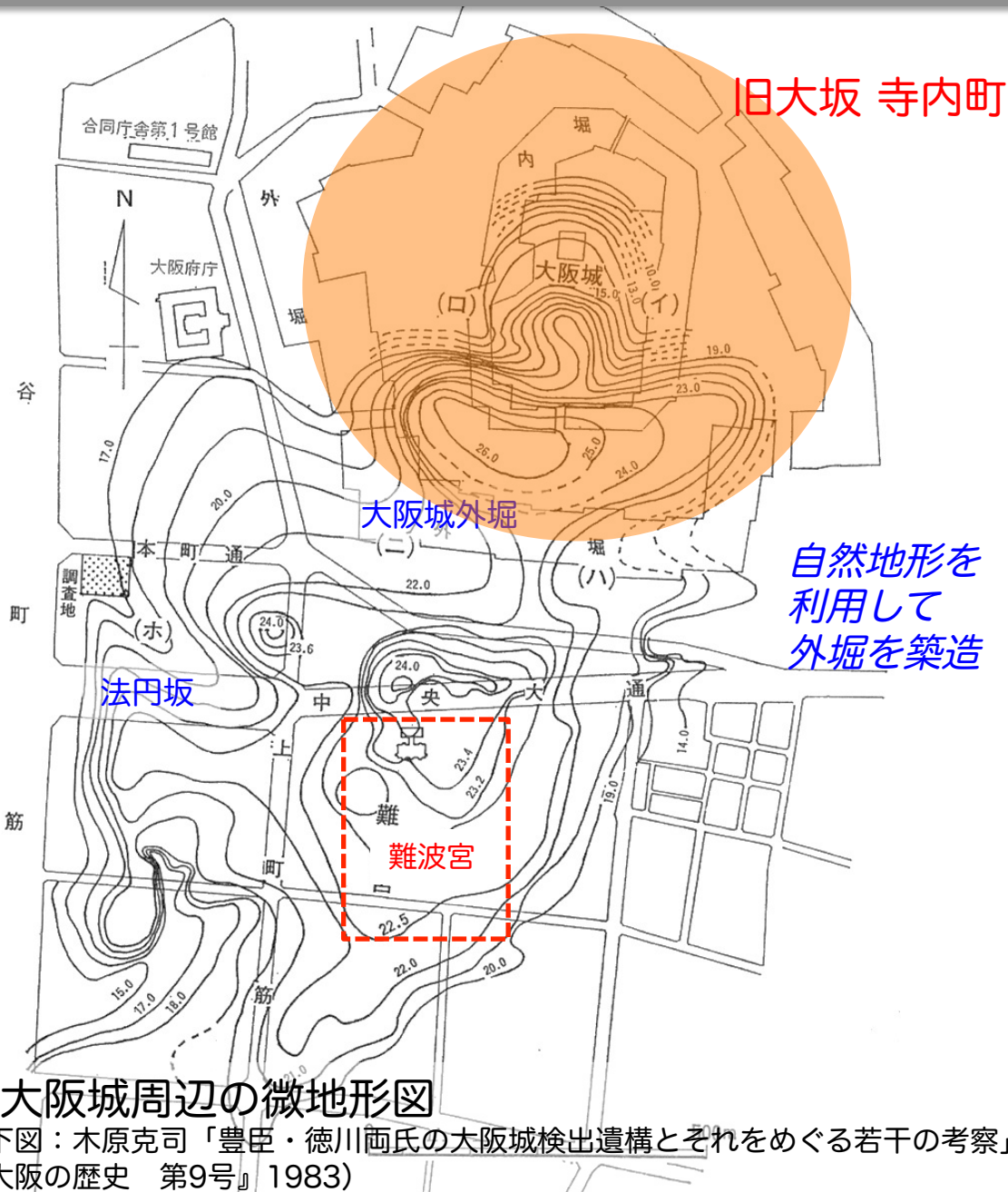
北辺の堀



傾斜地＝「土居」
竹藪で防衛



台地側の防衛：大坂寺内町（のちの大阪城）の地形

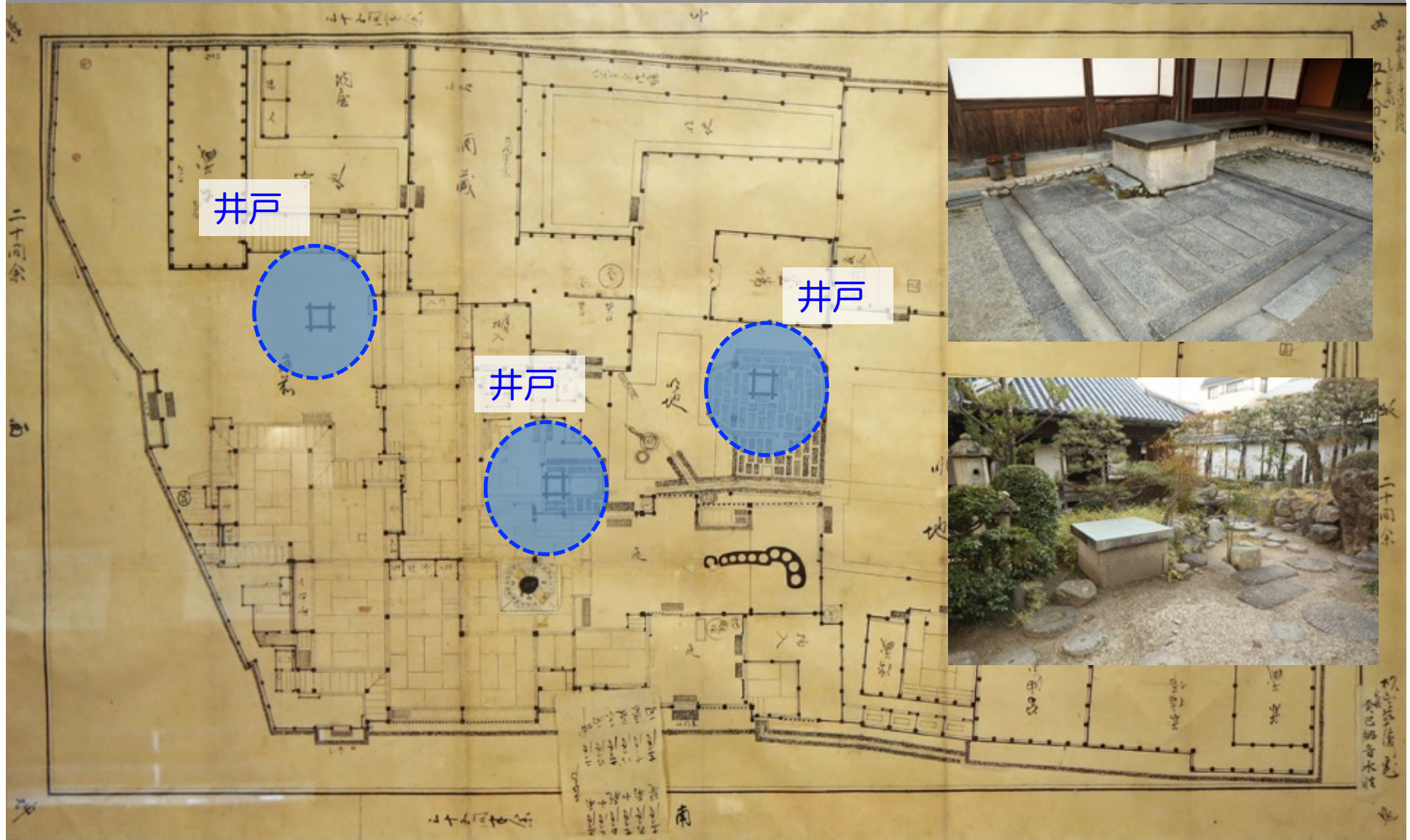


現大阪城周辺の微地形図

(下図：木原克司「豊臣・徳川両氏の大阪城検出遺構とそれをめぐる若干の考察」『大阪の歴史 第9号』1983)



用水の確保・・・台地上都市の課題・・・井戸

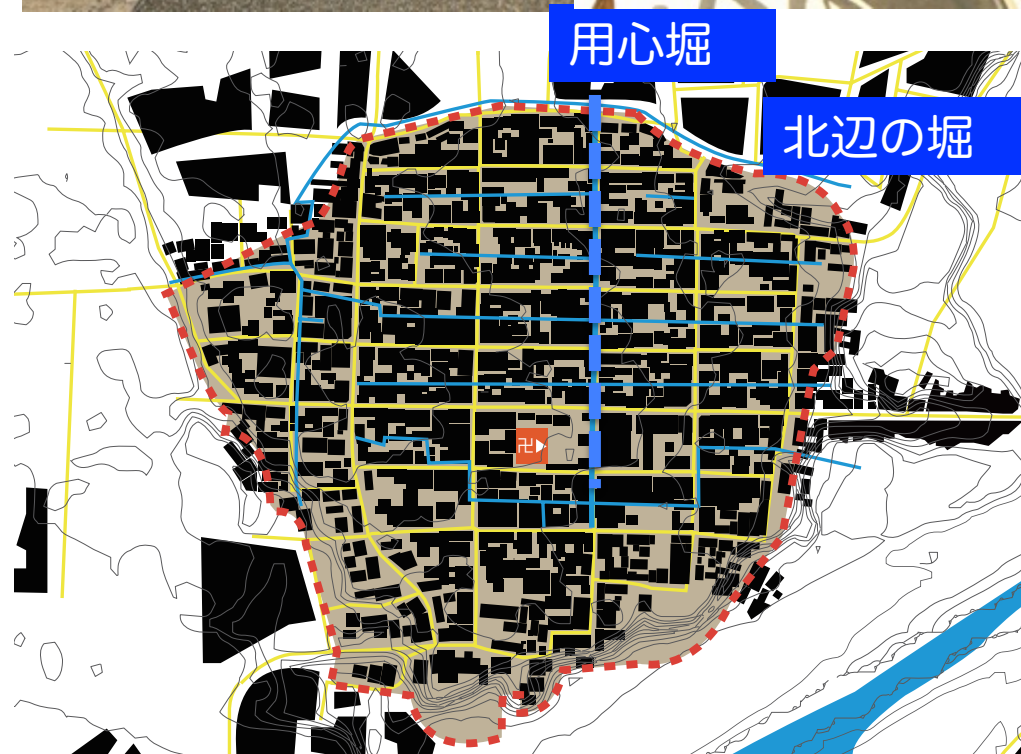


旧杉山家古図（1850）

杉山家蔵

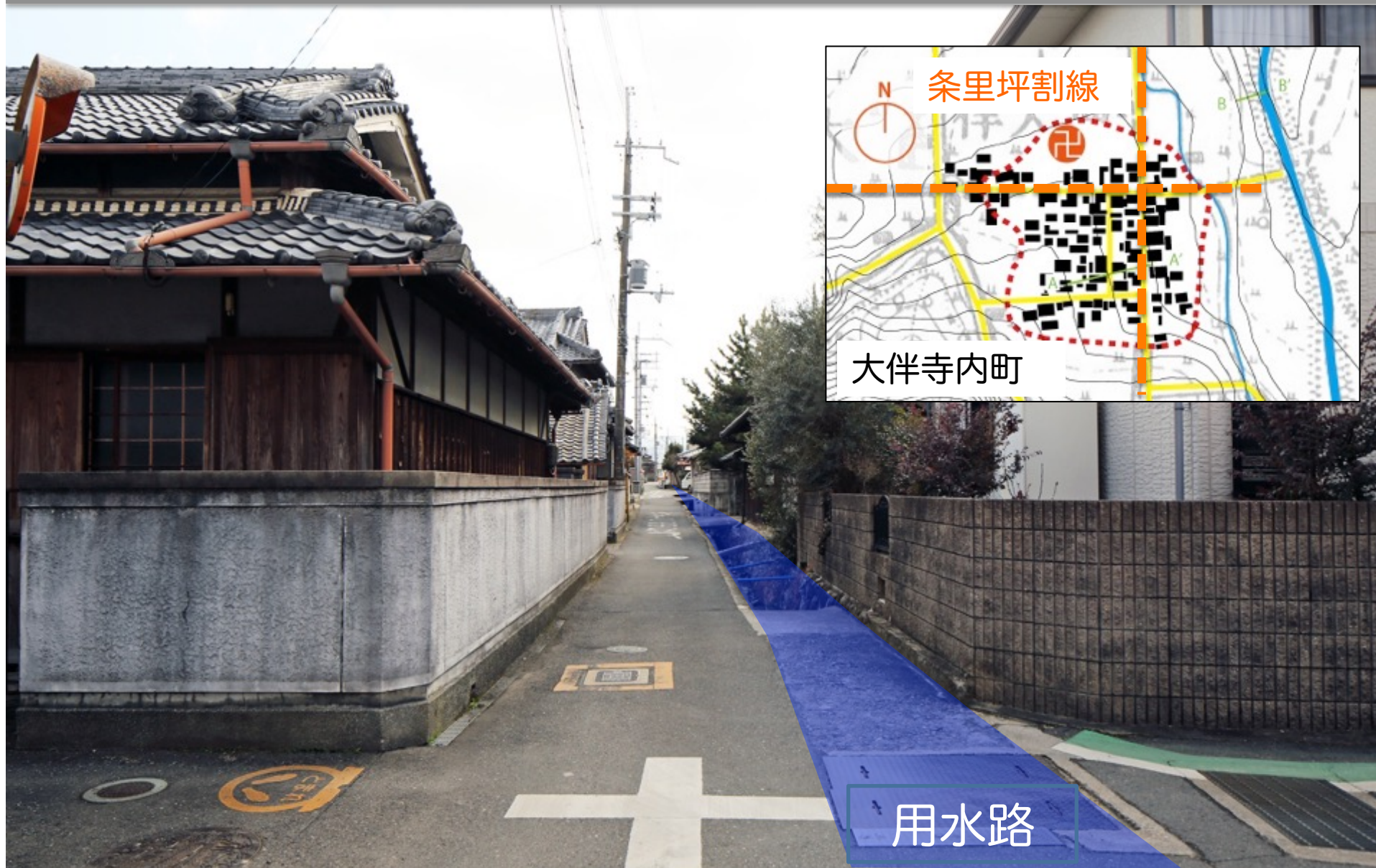
富田林では、昭和10年に上水道が整備されるまで飲料水は井戸に頼っていた。

用水の確保と防火・・・水路系統：背割水路→用心堀→北辺の堀



主要道路に水路を配する・・・防火に有効

大阪府・大伴の場合



大伴寺内町（大阪府）・・・古代条里制に従った主要道路に水路を配している

主要道路に水路を配する・・・防火に有効

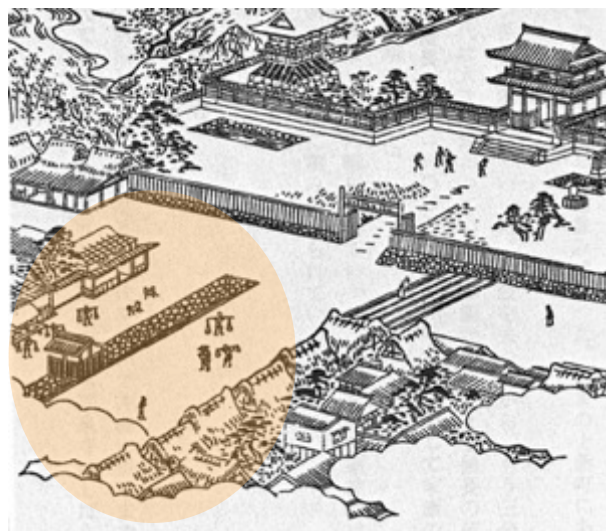
富山県・井波の場合



撮影：臼井秀一郎

水路

井波・八日市通り（大正時代に暗渠化）



1803年頃の
八日町通り

『二十四輩順拝図絵』



井波町絵図（1738）

千秋謙治『瑞泉寺と門前町井波』2005

江戸時代における防災の立看板



河内名所図会（1801）の富田林



道標（1751） 山家坂上

町中
くわへきせる
ひなわ火
無用

- ・ 19世紀初めは茅葺き（草葺き）民家が多かった
- ・ 近世初期1644の文書では瓦葺き民家は286棟中6棟のみ
（『河内州石川郡之内富田林家数・人数萬改帳』杉山文書）

令制国	町名	戸数密度 (戸 / km ²)	人口密度 (人 / km ²)	町域 面積 (ha) ※1	戸数	人口	年代	資料 ※2
摂津	富田・ 富田東岡	1,700	7,390	30	510 軒	2,217 人	1787	(1)
河内	富田林	2,408	10,183	12	289 軒	1,222 人	1644	(2)
河内	大ヶ塚	2,260	9,040	10	226 竈	904 人	1834	(3)
河内	金田	—	7,024	25	—	1,756 人	1875	(4)
河内	大伴	1,066	5,966	3	32 軒	179 人	1746 頃	(5)
越中	城端	3,385	18,965	20	677 世帯	3,793 人	1693	(6)

※1 町域面積は、検地帳などの古文書の記載では町域が不明瞭ということもあり、明治・大正期の古地図をもとに寺内町の都市域を比定した上で密度を算出した。

※2 「資料」欄の番号は次の通りである。

- (1) 天明7(1787)年「富田村明細帳」(『角川日本地名大辞典』)
- (2) 『角川日本地名大辞典』
- (3) 天保5(1834)年「家数人別増減差引帳」(『角川日本地名大辞典』)
- (4) 『角川日本地名大辞典』
- (5) 「石川郡二四ヶ村明細帳」『富田林市史研究紀要 第四号』1974、p.81
- (6) 元禄6(1693)年「組中人々手前品々覚書帳」『城端町の歴史と文化 史料編』所収、2004

町名	資料作成年	田	畠（畑）	屋敷	資料
富田林	慶長 13 (1608)	0 坪	3,708 坪	16,226 坪	※1
富田	天明 7 (1787)	431,009 坪	19,199 坪	57,285 坪	※2
金田	延宝 5 (1677)	547,589 坪	24,481 坪	35,967 坪	※3

※1 「富田林村屋敷方検地帳」『富田林市史第4巻』所収（伊藤裕久「在地寺内町の空間形成」『寺内町の研究 第3巻』所収、p.80）

※2 「富田村明細帳」吉田泰造家文書『高槻市史第4巻（二）』所収

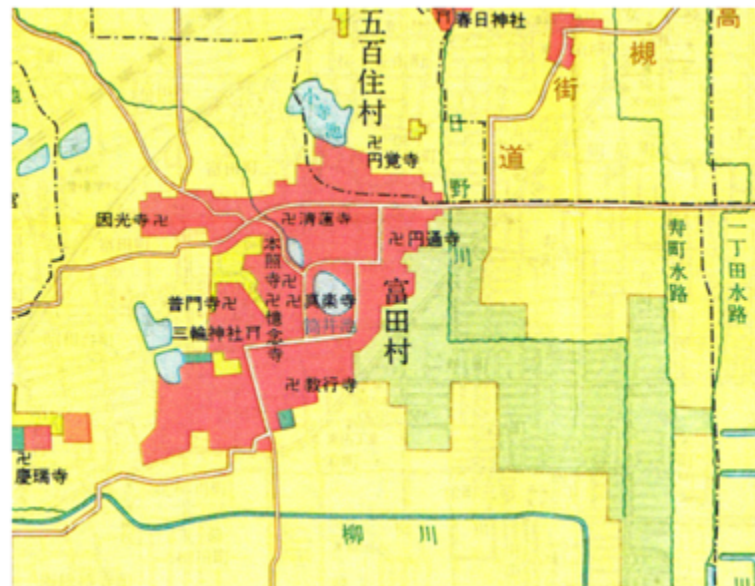
※3 「小松信次文書」『堺市史続編第4巻』所収

各町の面積は単位を町・反・畝を坪に換算したものである。

富田と金田は「田」の面積比率が大きい。

…富田林には、農業従事者も多く居住していたと考えられている。

町域の外側に「田」が広がっていたとわかる。



凡 例

	仮製地形図にみえる集落
	同 上 乾 田
	同 上 水 田
	同 上 茶 畑
	同 上 竹 林
	同 上 雑 木 林
	河川・水路・溜池・堀

富田の近世復原地図

出典：『高槻市史』所収

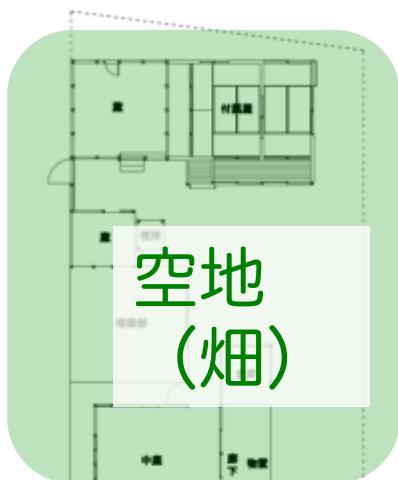
町割に見る防災的配慮・・・建物のかたち・・・【防火空地帯】の配置



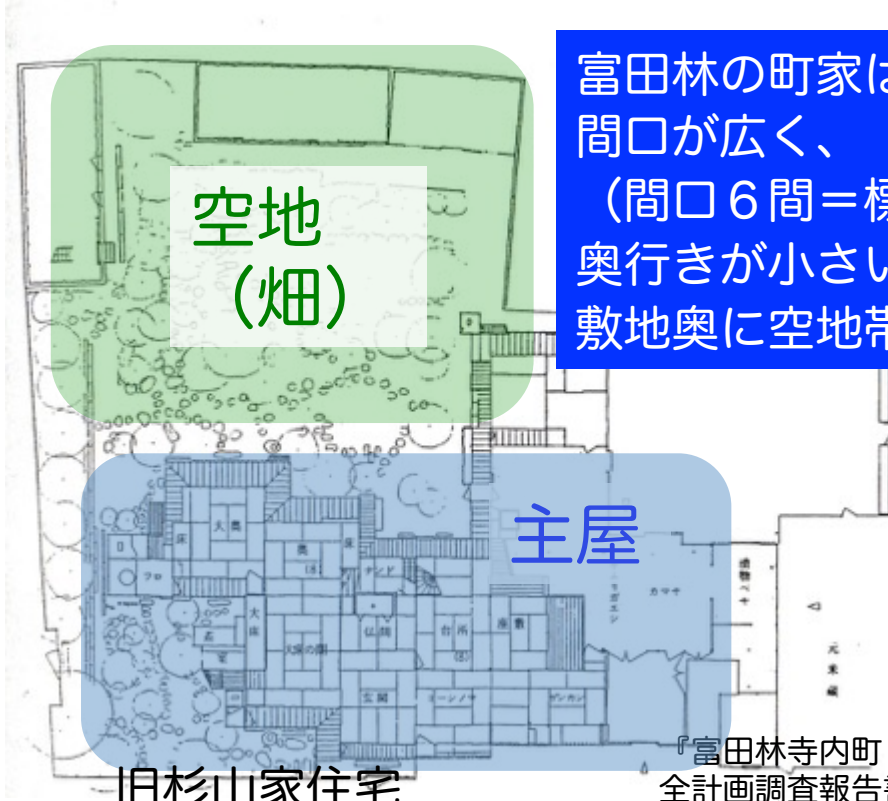
小田家住宅
明治36年



旧杉山家住宅
17世紀



小田家住宅



旧杉山家住宅

富田林の町家は、
間口が広く、
(間口6間＝標準)
奥行きが小さいので、
敷地奥に空地帯ができる

『富田林寺内町 歴史的町並み保全計画調査報告書』1984

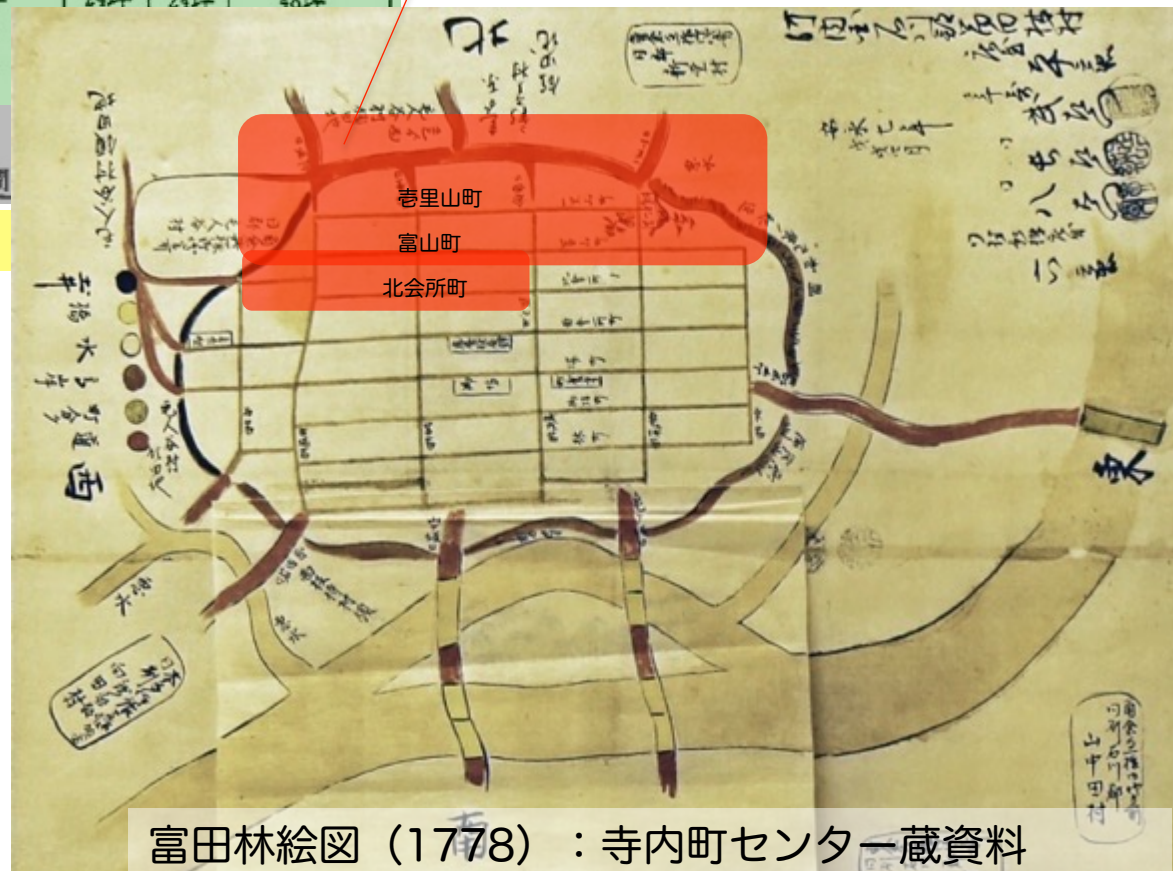
町割に見る防災的配慮・・・建物のかたち・・・【防火空地帯】の配置



享保15 (1730) 年の大火で焼失したとされる地域

寺里山町・富山町の全域、北会所町の西方が全焼したとされる (杉山家文書)

敷地奥の防火空地帯が有効に効いていた可能性

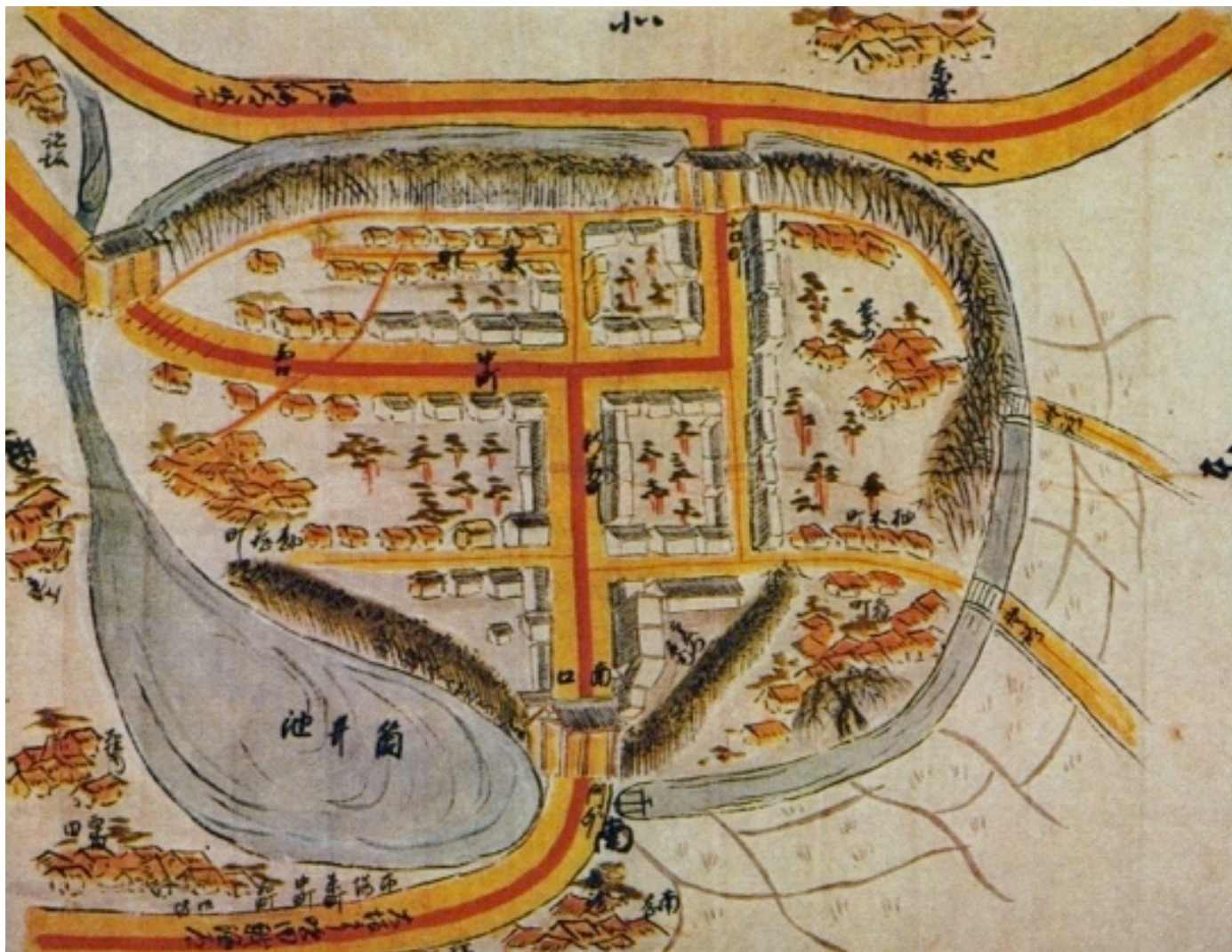


富田林絵図 (1778) : 寺内町センター蔵資料

町割に見る防災的配慮

防火空地帯の配置・・・富田東岡の場合

間口が広く、
奥行きが小さい
(敷地奥に空地帯
ができる)



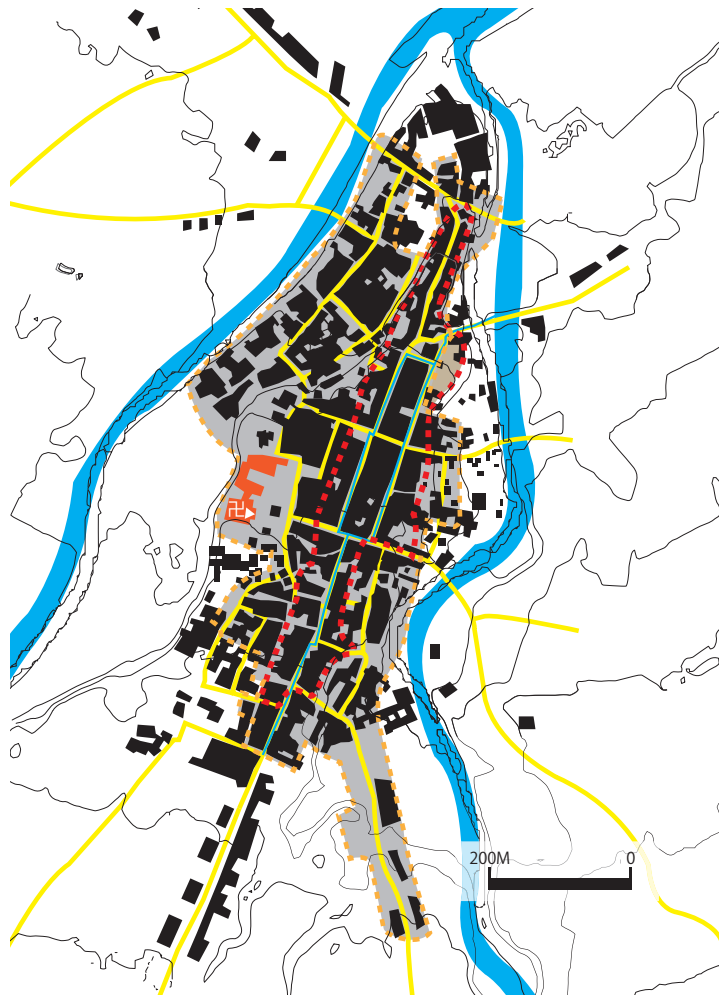
「農村的」寺内町

富田（東岡宿）絵図
清水家文書（『高槻市史』）

城端：「都市的」・・・商工業者の人口が多く、農業従事者が少ない

城端町の「居屋敷」の町口（間口） 元禄6年

町口（間）	1-1.9	2-2.9	3-3.9	4-4.9	5-5.9	6-6.9	7-7.9	8-8.9	9-9.9	10-10.9	11～	合計
居屋敷の数	3	73	111	158	78	26	8	2	2	1	1	463
割合（%）	0.6	15.7	24.0	34.1	16.8	5.6	1.7	0.4	0.4	0.2	0.2	100



※ 元禄6（1663）年の「組中人々手前品々覚書帳」（『城端町の歴史と文化 資料編』所収、城端町史編纂委員会編、2004、pp.5-244）をもとに作成。
 ※ 「居屋敷」のうち「町口」の値を集計した。「町口」の記載の無いものは計上していない。

